
■ ジャパン・オープンサイエンス・サミット 2024(JOSS2024) セッションのご案内

オープンサイエンスをテーマとした日本最大のカンファレンス
「Japan Open Science Summit2024(JOSS2024)」がオンラインで開催されます。

テーマは、
・政策・ポリシー
・OA、データ共有とコミュニティ
・メタデータとプラットフォーム
・図書館/博物館/大学でのデータ管理
・社会連携
などが設定されており、1週間を通して約20のセッションが開催されます。

日時:2024年6月17日(月)～6月21日(金)

会場:オンライン開催、参加無料

詳細・申込み:<https://joss.rcos.nii.ac.jp/>

科学技術振興機構(JST)とCHORUSとの共催による以下のセッションでは、米国および日本の政府機関や、国内外の学協会、日本の資金提供者から講演者を招き、学術論文とその根拠データの公開戦略を紹介し、各国の政策に準拠する際の研究者の課題について議論する予定です。

※日英同時通訳をご利用いただけます。

●OA、データ共有とコミュニティ

・C4「JST-CHORUS フォーラム: 公的資金による研究データのオープンアクセス」

Data as an Output of Publicly Funded Research」

日時:6月20日(木)10:00～11:30

今年、内閣府より公表された「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」において、2025年度から新たに公募を行う競争的研究費によって創出された学術論文、さらにその根拠データの即時オープン化が義務づけられ、研究成果の透明性や再現性などのさらなる向上が期待されている。研究データの扱いについては、研究機関は、この新たな方針に準拠した研究データに関わるポリシーを整備することが求められる。海外では、各国の政府や助成機関により、研究データ公開の強化が進められており、米国においては、科学技術政策局(OSTP)による即時OAの方針において、政府機関にパブリックアクセス計画を策定することを義務づけている。このような状況で、研究データとリンクされた論文、講演要旨集、書籍等も急増している。

今回のJST-CHORUS ジョイントフォーラムでは、日米の講演者から、研究データの公開に関するそれぞれの戦略を紹介するとともに、各国の政策に準拠するに際し研究者が直面する課題について議論する。

モデレーター:

・谷藤 幹子(国立情報学研究所)

登壇者:

・村山 泰啓(情報通信研究機構)

- ・土井 大輔(文部科学省)
- ・中島 律子(科学技術振興機構)
- ・Michael Cooke (US Department of Energy, Office of Science)
- ・Shelley Stall (American Geophysical Union)

セッションの詳細については、以下の公式ページをご覧ください。

https://joss.rcos.nii.ac.jp/session/overview/?id=se_111

* * * * *

皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ

□JST(科学技術振興機構)情報基盤事業部 J-STAGE 担当

□東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

□event@jstage.jst.go.jp

□X(旧 Twitter): @jstage_ej

□-----